

謎のアンモナイト「ポリプティコセラス・ジンボイ」の正体

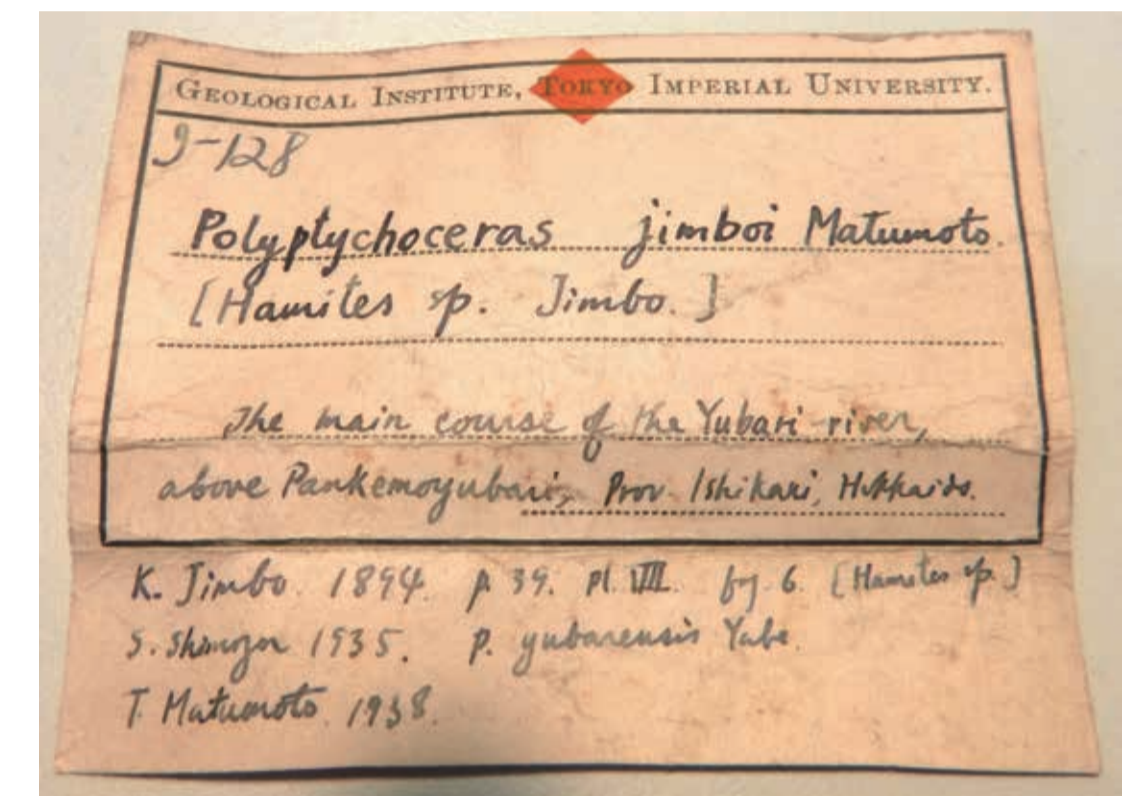


自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

生野賢司

白亜紀に生息していた「ポリプティコセラス」は、トロンボーン状の殻をもつアンモナイトの属です。これまで 10 を超える種に分類されてきましたが、その中には実体が不明な「種」もあります。1938 年に命名された「ポリプティコセラス・ジンボイ」(以下、ジンボイ)もそのひとつです。この名は愛好家の間で長らく使われてきましたが(三笠市立博物館ボランティアの会、2018)、この名を提唱した文献にはこの種の特徴に関する記述や標本の図がなかったため、不適格名(設立条件を満たしていない非公式な学名)であることが判明しました。

ジンボイの実体は公式には不明でしたが、標本調査を続けると「ポリプティコセラス・ユーバレンゼ」(以下、ユーバレンゼ)と同じであることがわかりました。ユーバレンゼは、最初に提唱された 1927 年の文献に記載や図がなく不適格名であったため(その後 1935 年に正式に設立)、別の名前が提唱されたと考えられます。ちなみに、ユーバレンゼのタイプ標本をじんぼ ことら図示したのは神保小虎博士で、ジンボイは同氏に献名されたものと考えられます。ジンボイをめぐるこの問題は、原記載論文(一次資料)を調べること、学名の運用ルールを学ぶこと、古い標本ラベルを捨てずに保管しておくこと、の重要性を教えてください。



ユーバレンゼのタイプ標本に添えられていた、ジンボイと書かれた東京帝国大学時代のラベル(東京大学総合研究博物館所蔵)。タイプ標本を意味する赤い印も付けられている。



保存状態の良いユーバレンゼの標本(北海道小平町の蝦夷層群羽幌川層産。三笠市立博物館所蔵)